

# 農に生きる!

勝山市にワークステイ制度などを利用して農業体験に来る人が増えています。そんな中で、勝山市を気に入り移住された若いご夫婦がいらっしゃいます。お2人の話から勝山の、そして農業の魅力が見えてくるかも…



## ▼ワークステイとは?

2国間の協定に基づいて、青年(18歳~25歳または30歳)が異なった文化(相手国)の中で休暇を楽しみながら、その間の滞在資金を補うために、一定の就労をすることを認める査証および出入国管理上の特別な制度です。

## ▼ワークステイとは?

農山漁村に滞在し、地域住民と交流しながら、農作業や地域づくり、環境保全活動などのボランティアを行います。なお、福井県など自治体が募集しています。

です。」と、こやかに話しました。

## ■暮らしやすさ

最後に、勝山の印象をお聞きしました。「何でも揃っているし、住むには十分便利な所だと思います。一時間で福井市内まで行けますしね。あと、皆さんとても親切にしてくれます。特に近所のかたには、野菜の作り方を教えてもらっています。」とのこと。

冬の雪の多さには驚かれたようですが、これからもお二人で力をあわせ、いつか夢がかなうことを願っています。



山本奈々絵さん  
31歳  
大阪府出身

山本義晃さん  
32歳  
愛知県出身

山本義晃さん奈々絵さん夫妻は、今年の4月から平泉寺町大矢谷に移住されました。2人ともラブラー牧場関係のお仕事をされています。まずは、勝山に移住することになった経緯を伺いました。

## ■2人の出会い

義晃さんは、いずれは馬の牧場を経営したいという夢を持っていて、その勉強をするためにワーキングホリデー制度を利用してニュージーランドとオーストラリアに滞在していました。

同時期に奈々絵さんは、イルカのボランティアをするためにオーストラリアに滞在しており、そこで知り合って昨年の7月に結婚されました。

## ■勝山に住みたい

昨年7月に帰国して、就職活動をし

ているときに、昨年9月末に行われたラブラー牧場でのワークステイ募集をインターネットで見つけ、2人で参加しました。そこで、ラブラー牧場を経営する松本忠司さんの考え方に深く共感し、勝山市への移住を決めたそうです。

## ■自然と生きること

2人の理想は、自給自足の生活をすることだそう、松本さんの普段の生活がとても理想に近いものだったそうです。

野菜を作るにもまず土づくりから始め、無農薬で行う。これがどんなに変なことか、また、健康のために必要なことなのかということ、2人は理解しています。

かつて働いたことのある外国の大農

場を見た、信じられないくらい大量の農業を使用する大規模農業。そして、それらの野菜を大量に輸入している日本の現実。そのとき受けた衝撃が、2人の自給自足への考えの根底にあります。

自分で食べるものを自分で作ることに、これが理想だそうです。今は野菜づくりも勉強中です。

## ■いつかは牧場を

将来の夢をお聞きしたところ、「やはり独立して自分の牧場を持ち、独自のスタイルで経営したい。」とのこと。勝山で牧場を?とお聞きしたら「松本さんは師匠であり、ライバルですから、その地元では…(笑)。実際は勝山では難しいでしょう。どこかいい場所があれば、どこでもやりたい



牛舎の清掃中



ソフトクリームを作る奈々絵さん